

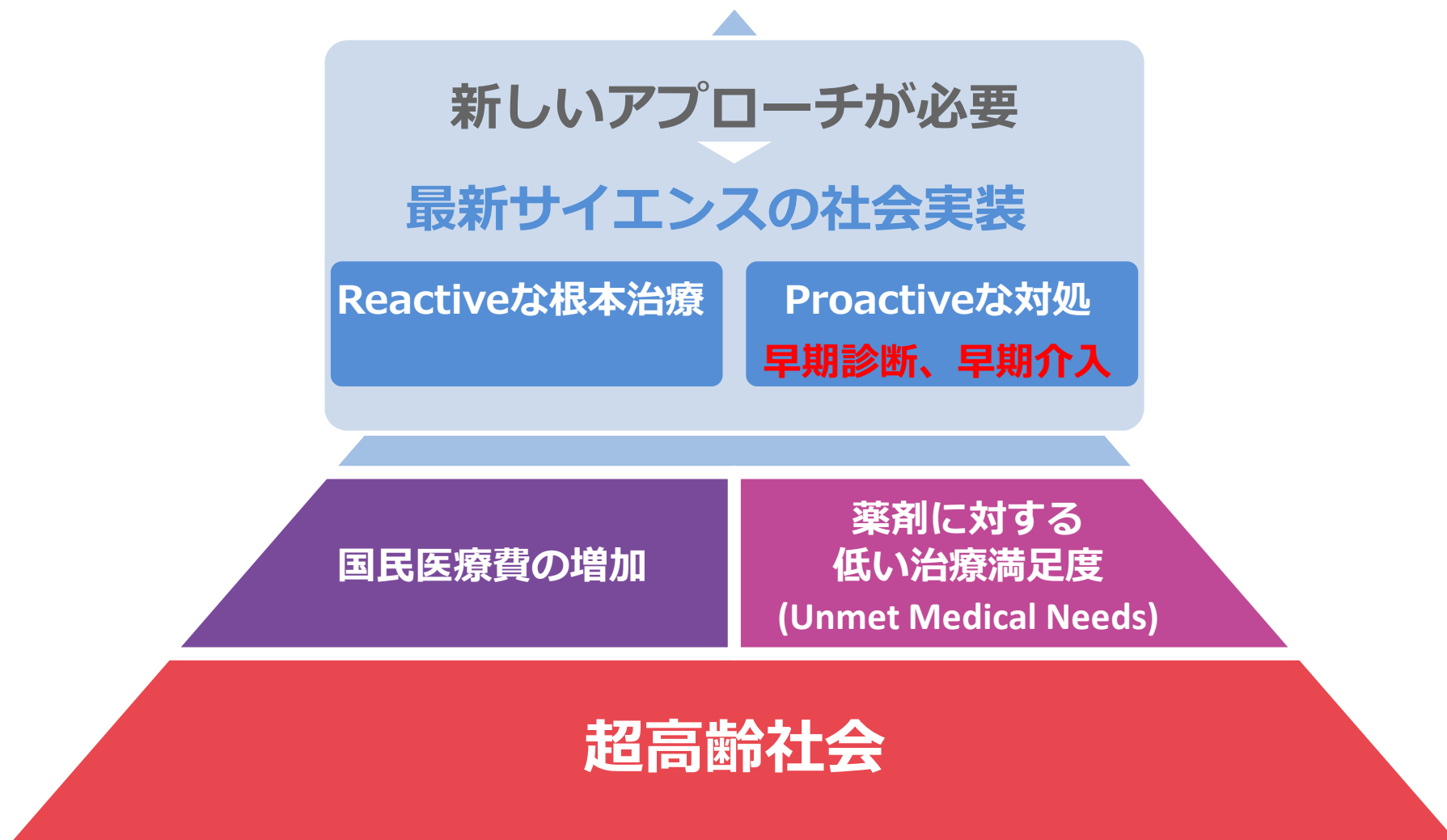
第14回 健康・医療戦略参与会合 (2017.7.20)

超高齢社会における 早期診断、早期介入の強化

一般社団法人
再生医療イノベーションフォーラム
FIRM (Forum for Innovative
Regenerative Medicine)
代表理事、会長

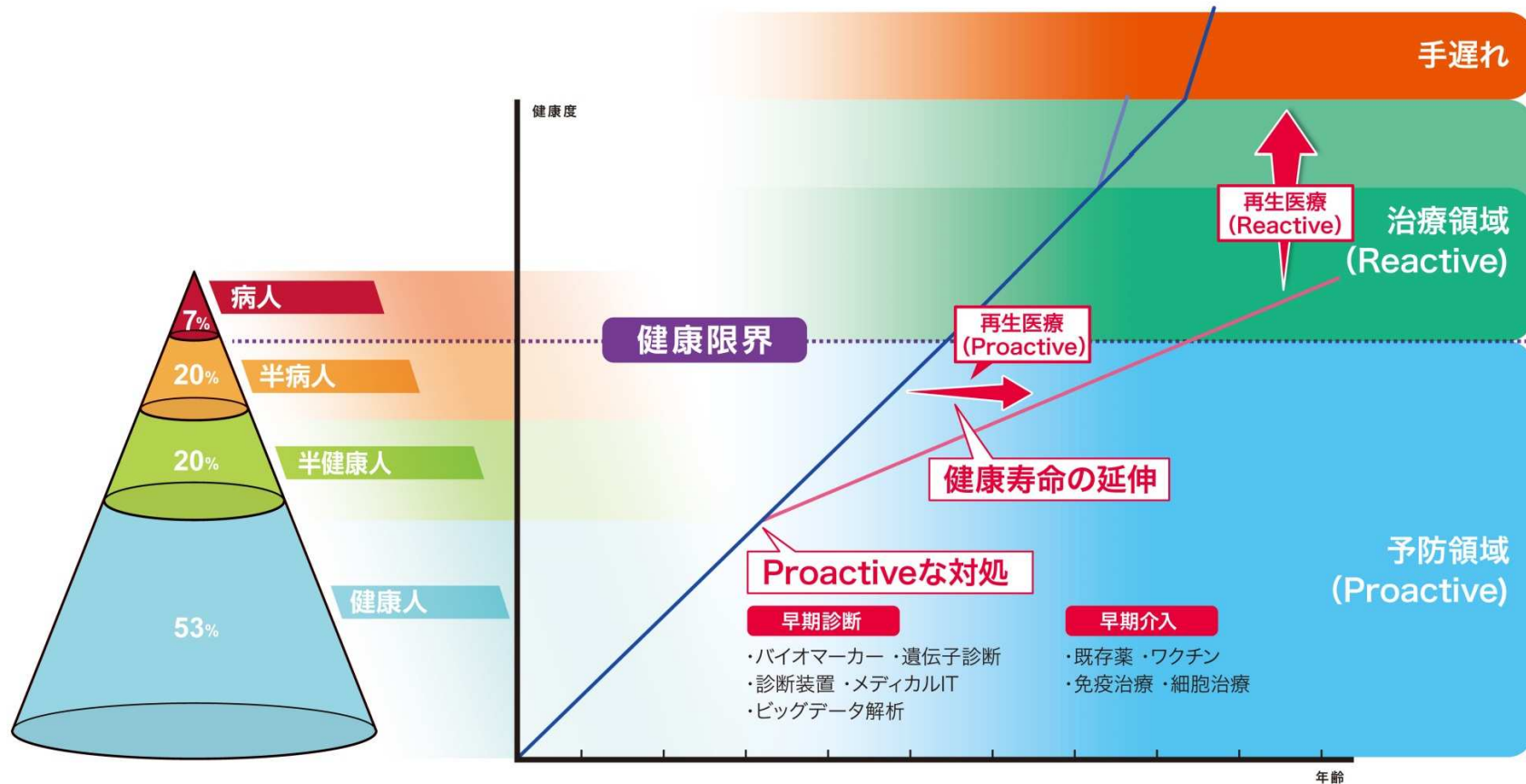
戸田 雄三

超高齢社会のもたらす課題



今後の医療のアプローチ

- 健康寿命の延伸及び医療費抑制を実現すべく、予防領域でのProactiveな対処が新たに必要
- Proactiveな対処には「早期診断法」「早期介入法」の開発が必須
- 再生医療を始め免疫療法等のサイエンスの成果は、「治療領域」を拡大する (Reactive) のみならず、早期介入 (Proactive) の手段ともなる



早期診断、早期介入の重要性

1. 健康寿命の延伸（QOL向上）

- がん・アルツハイマー等の高齢に伴う疾患は治療成績が極めて低い。遺伝子検査・AI（ビッグデータ）活用に加えて、新たな早期診断法により個々人が病気となるプロセスやリスクを明確にし、細胞治療・治療薬の予防投与・ワクチン等で早期介入することが重要と考える
- 上記を実現するためには、サイエンスの成果としての早期診断技術の開発と同時に社会実装の仕組みも改革する必要がある（早期診断・早期介入への公的資金援助及び承認制度の改革）

2. 国民の医療費増加の抑制（医療費：38兆円、介護費：10兆円）

- 早期診断、早期介入の実施は、国民の健康寿命の延伸・QOL向上に資するのみならず、国の財政支出削減・労働人口確保等に対しても大きなメリットがあると考える

提言

1. 早期診断

- 高度な精密画像診断や新規バイオマーカーなどの革新的診断技術の製品化を目的とした産業化支援策を推進する

2. 早期介入

- 既存薬の活用・ワクチン接種・免疫治療・細胞治療等と、遺伝情報を含めた個人情報のデータベース化により、究極のテーラーメイド型医療の実現を目指す

3. 公的支援の整備及び承認制度の改革

- 公的支援による、予防に対する何らかの形の個人負担軽減策の導入（現在、ワクチンでは既に公的支援が実施されている）
- 特に深刻なアルツハイマー等の早期診断・早期介入に資する革新的な製品・技術に対して、再生医療で実績のある条件付き承認制度の導入

がん・アルツハイマー・生活習慣病対策は、同時平行的に進めないとならぬ。